

# 平成30年度 学校自己評価システムシート (県立飯能高等学校定時制の課程)

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会で自立できる力を育てる定時制高校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 生徒が安心できる居場所づくりと生徒の自主性、自律性、社会性の伸長 2 基礎・基本の定着と進路指導の充実 3 保護者や中学校との連携強化と学校情報の積極的な提供
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校生徒の現状は、中学校時代に不登校等を経験した生徒が多く、学校にマイナスの印象を持っている生徒も少なくない。生徒が前向きに登校し、安心できる居場所として期待され、問題解決の糸口として、教育相談が効果的に機能することが必要である。</li> <li>生徒と職員の信頼関係醸成のためには教科指導のみならず、学校行事や部活動等の特別活動が重要である。</li> <li>4年間の学習期間の中で、生徒が社会で自立した生活が営めるよう、教科指導・学校行事・部活動を通じて、より一層自主性、自律性、社会性を育み伸ばすことが必要である。</li> </ul>	生徒が学校行事・部活動に主体的にかかわっていく指導をとおして自立できる力を育む取り組み。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒理解のための個別面談を毎学期設定し、面談を通じて体育祭や学芸祭等の学校行事に主体的に関わることが出来るか振り返りを行う。</li> <li>②遅刻率減少に向け、遅刻の基準や統計データを共有し、指導方法の改善に取り組む。</li> <li>③学校行事・部活動をとおして生徒間の親交を一層深め、他への配慮ができるようにする。</li> <li>④外部機関、外部講師と連携して在り方生き方教育を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①個別面談の実施によって学校行事に主体的に関わるきっかけとなったか。</li> <li>②指導方法が確立し、遅刻率減少のきっかけとなったか。</li> <li>③生徒間のコミュニケーションが適切に図れ、学校定着度の向上や他への配慮や気遣いが見られたか。</li> <li>④外部機関との連携が図られたか。</li> </ol>	学校行事や部活動をとおして自立する力を身に付けさせることができた。 ①今年度も年度当初の三者面談に始まり、各考査後年5回の面談を実施した。 ②毎月遅刻回数を集計し、グラフ化した資料を生徒へ提示し、遅刻率減少の意識を高めている。 ③コミュニケーション力の向上を目的とし、班行動を重視した遠足を2回実施した。 昨年に引き続き陸上部が全国大会に5名出場した。生徒間の親交が一層深まった。 ④6月の進路ガイダンス、7・12月の非行防止教室、11月の在り方生き方教育で外部講師を招聘し見聞を深めた。「高校生自立支援事業」も順調に実施できている。	A
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な学習歴を持ち、ほとんどの生徒が小中学校の段階で学習につまずいた経験をもつ。学習意欲に課題がある裏には学習面における成功体験の少なさも要因の一つと考えられる。</li> <li>わかる・できる体験を積み重ねることが重要である。学校生活の4年間の学習活動が、卒業後のより良い社会生活につながるよう留意することが必要である。</li> </ul>	生徒一人ひとりに対して、わかる・できる学習指導を充実させ基礎基本を定着させる取り組み。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学習サポーターを活用してわかる・できる体験をさせ、学習意欲の向上を図り、欠点保有者の減少に取り組む。</li> <li>②授業実施率のアンバランスを解消した臨時時間割を作成し、授業確保に取り組む。</li> <li>③本校の進路指導を継承しつつ、生徒のより良い進路実現を図るため、アドバイザーとの連携を深め改善に努める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒への支援により、できる実感を持ち、学習意欲の向上が見られ、欠点保有者が減少したか。</li> <li>②効果的な臨時時間割が作成され、授業確保がなされたか。</li> <li>③進路指導計画の改善による組織的な進路指導ができたか。アドバイザーとの連携は深められたか。</li> </ol>	年間行事計画を見直し、授業時間を確保したことにより、わかる・できるを実感させることができた。 ①授業時間を確保したことにより考査対策が手厚くできた。欠点保有者はここ数年5名以下を推移している。 ②考査期間を短縮し授業時間を確保した。臨時時間割は各授業の実施率を平均化して作成している。 ③学年ごとにテーマを設定した進路学習が定着した。進路状況は進学2名、就職10名決定。1名が未決定である。	A
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育活動には、保護者・地域の協力が欠かせない。4年間で生徒が大きく成長する定時制の特性を保護者、中学校、地域に十分浸透させるまでには至っていない。</li> <li>ホームページの積極的な更新と、保護者には学校行事への参加を促し、保護者との連携で教育改善を図る。あわせて中学校との連携を一層深める。</li> </ul>	保護者との連携、中学校との連携を深め、働きながら学ぶ定時制教育を一層充実させる取り組み。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①PTA 下校指導を年間2回実施し、保護者と連携して指導にあたる。</li> <li>②学校説明会・中学校訪問を実施し、生徒の指導に活用するとともに定時制を正しく理解してもらう機会とする。</li> <li>③学校HPを更新し、学校情報を積極的にPRできたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者の定時制への理解が深まり、協力が得られたか。子どもの成長を保護者が実感できているか。</li> <li>②学校説明会・中学校訪問を生徒理解に活用できたか。中学校への定時制PRの機会とできたか。</li> <li>③組織的なHP更新が40回以上でき、定時制の特性が理解されたか。</li> </ol>	地域や中学校に定時制の存在意義を浸透させることができた。 ①保護者の協力を得てPTA下校指導を2回実施することができた。 ②12月から主に市内中学校の訪問を、11月に学校説明会を実施し、定時制への理解が得られた。 ③学校行事関連を中心に40回以上の更新ができた。	A

学校関係者評価
実施日 平成31年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>遅刻指導の難しさを感じるが、面談の他に部活動や学校行事などの取り組みが、出席率の向上・欠点保持者の減少に繋がっているのではないかと。今後も生徒の力を引き出し、引き続き丁寧な指導をお願いしたい。</p> <p>学習サポーターや就職支援アドバイザー等を活用し、生徒一人ひとりに対応している工夫や、生徒の進路決定までの取り組みはよくできている。教職員が一丸となって、取り組む姿勢を継続してほしい。</p> <p>学校説明会や中学校訪問での対応は成果が徐々に表れている。ホームページの改善や、PTA・中学校と引き続き連携し、中学校側の定時制理解に努めて欲しい。</p>

